

総務文教委員会会議録

1. 開催年月日

平成30年7月26日 開会 11時18分 閉会 12時05分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

西村 慎次郎 宮地 俊則 妹尾 文彦 山下 憲雄
西田 久志 三輪 順治 佐藤 豊

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 事務局職員 事務局長 川田 純士 事務局次長 藤原 靖和
主査 柳本 兼志

6. 傍聴者

なし

7. 発言の概要

委員長（西村慎次郎君） それでは、ただいまから総務文教委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

委員長（西村慎次郎君） 本日の議題は、1、行政視察報告についてから2、その他でございます。

〈行政視察報告について〉

〈行政視察報告書の概要について、別紙のとおり決定〉

〈行政視察における各委員の意見・感想を発表、今後の取り組み等について協議〉

〈その他〉

〈今回の行政視察で訪問できなかった愛媛県西条市への視察を再度調整することに決定〉

委員長（西村慎次郎君） それでは、以上で総務文教委員会を閉会いたします。

委員会行政視察報告書

平成30年 7月 日提出

井原市議会議長 西田久志 様

報告者 総務文教委員会

委員長 西村 慎次郎

副委員長 宮地 俊 則

委 員 妹尾 文 彦

委 員 山下 憲 雄

委 員 西田 久 志

委 員 三輪 順 治

委 員 佐藤 豊

期 間	平成30年7月4日（水）～平成30年7月5日（木）
出張先及び 担当職員 職名・氏名	徳島県三好市 議会 谷賢二次長 地方創生推進課 山口哲司次長、片山秀和主任主査 徳島県美馬市 議会 川西仁議長、見立貞治次長 教育総務課 竹内寛泰教育指導監、池上指導主事、 岩湯岩山研究員
出張者氏名	西村慎次郎、宮地俊則、妹尾文彦、山下憲雄、西田久志、三輪順治 佐藤豊、北村容子（教育次長）、藤原靖和（議会事務局）
調査項目	徳島県三好市 : 休廃校の活用について 徳島県美馬市 : 教育現場でのICT化について
(概要)	別紙のとおり
(所感)	別紙のとおり

1. 報告書は、視察・研修終了後1カ月以内に提出してください。
2. 概要、所感については、別紙を添付してください。
3. 所感には、1行目の右端に委員名を記載してください。

『休廃校の活用について』

徳島県三好市地方創生推進課

【行政視察資料】三好市休廃校等活用事業

休廃校の校舎を活用する事業や古民家を改修した
宿泊施設の整備、官民一体となった観光振興の取り組
みをされており、視察受入も観光資源として捉え、
宣伝と経済波及のダブル効果を狙っている。



休廃校活用事業について、市は無料貸し出しを全国
に先駆けて実施し、現在9校が利用されている。過疎に苦しむ山間部が活気を取り戻すモデル
ケースとして注目をされている。

その具体的内容については、次のとおりである。

1. 三好市の概要

平成18年3月に、三野町、井川町、池田町、山城町、西祖谷山村、東祖谷山村が合併し、
三好市が誕生した。「住んでよかった、訪れてよかった」と思えるまちづくりを目指す。

■人口 : 26,503人(平成30年6月末現在)

■世帯数 : 12,800世帯

■面積 : 721.5km²

2. 現地視察



旧下野呂小学校



シモノロ・シロモノ



ハナエミ（里山ようちえん）

経営者：植本綾子さんとの懇談

3. 休廃校の活用について

(1) 休廃校活用の経緯

- ・児童数の減少による休校の増加、地域活動の低下
- ・市長の平成22年のマニフェストに、休廃校の活用の推進が掲げられた
- ・平成24年度に休廃校活用事業推進のため地域振興課に職員1名増員
- ・平成24年度に三好市議会で、休廃校の活用を審議
- ・平成24年時の休廃校数28校（休校17、廃校11）

(2) 本事業の成果、課題と今後の展開

○成果（平成29年度末）

- ・募集22校中 8校活用
- ・雇用創出 当初計画59人 現時点では32人雇用
- ・移住者 約10人
- ・地域の活性化、福祉サービス、コミュニティの場の提供

○課題

- ・維持管理費などの増加
- ・活用事業者への支援

○今後の展開

- ・活用検討校（維持管理見込額の把握や立地環境の考慮）
- ・施設廃止校（公共施設等総合管理計画策定に基づく撤去）

別紙

(3) 活用事例

- ①旧太刀野山小学校・・・福祉関係施設
- ②旧河内小学校・・・柚子・豆加工所
- ③旧有瀬小学校・・・農産物加工所
- ④旧西山小学校・・・社会福祉施設
- ⑤旧馬場小学校・・・サテライトオフィス
- ⑥旧西宇小学校・・・社会福祉施設
- ⑦旧出合小学校・・・デザイン事務所
- ⑧旧佐野小学校・・・物流配送事業
- ⑨旧大和小学校・・・スポーツ関連事業
- ⑩旧下野呂小学校・・・カフェ、保育所

『教育ICT化について』

徳島県美馬市教育委員会

【行政視察資料】美馬市内教育LAN状況、校務支援ソフト、鳴門教育大学サテライト事業

平成22年度で小中学校への電子黒板機能付きデジタルテレビの導入、小中学校のネットワーク環境整備のほか、平成23年から24年度にかけて、市内小中学校の全教科「デジタル教科書」を導入するなど、早くから教育現場への情報化が進んでいる。また、平成24年



度から学校ICT支援員を市単独で配置し、教職員のスキルアップを図る取り組みをしている。

平成27年度から鳴門教育大学・徳島県教育委員会・阿南市教育委員会と連携して、サテライトシステムを活用した教育研修を実施している。平成28年度からは、可搬式テレビ会議システムを活用し、校内研修等にも対応できるようになった。

その具体的内容については、次のとおりである。

1. 美馬市の概要

平成17年3月に、脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併し、美馬市が誕生した。

「美来創生のまち美馬市～一步先の確かな未来へ」をキャッチフレーズにまちづくりに取り組んでいる。

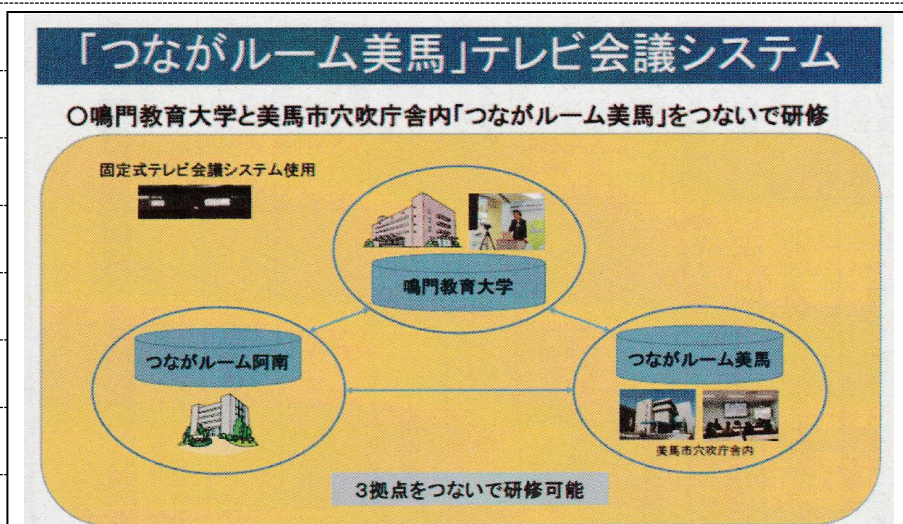
■人口 : 29,901人 (平成30年3月末現在)

■世帯数 : 12,839世帯

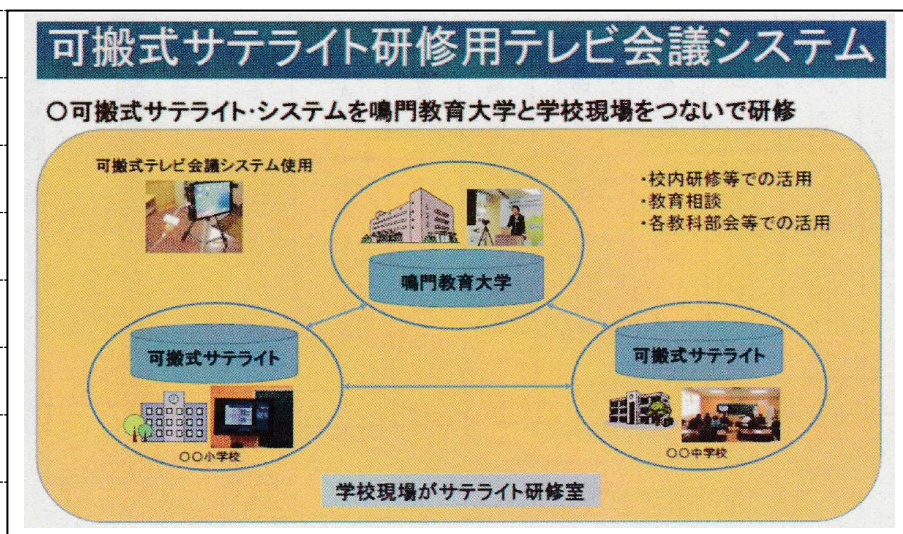
■面積 : 367.14km²

2. 鳴門教育大学サテライト事業について

(1) 「つながルーム美馬」サテライト研修

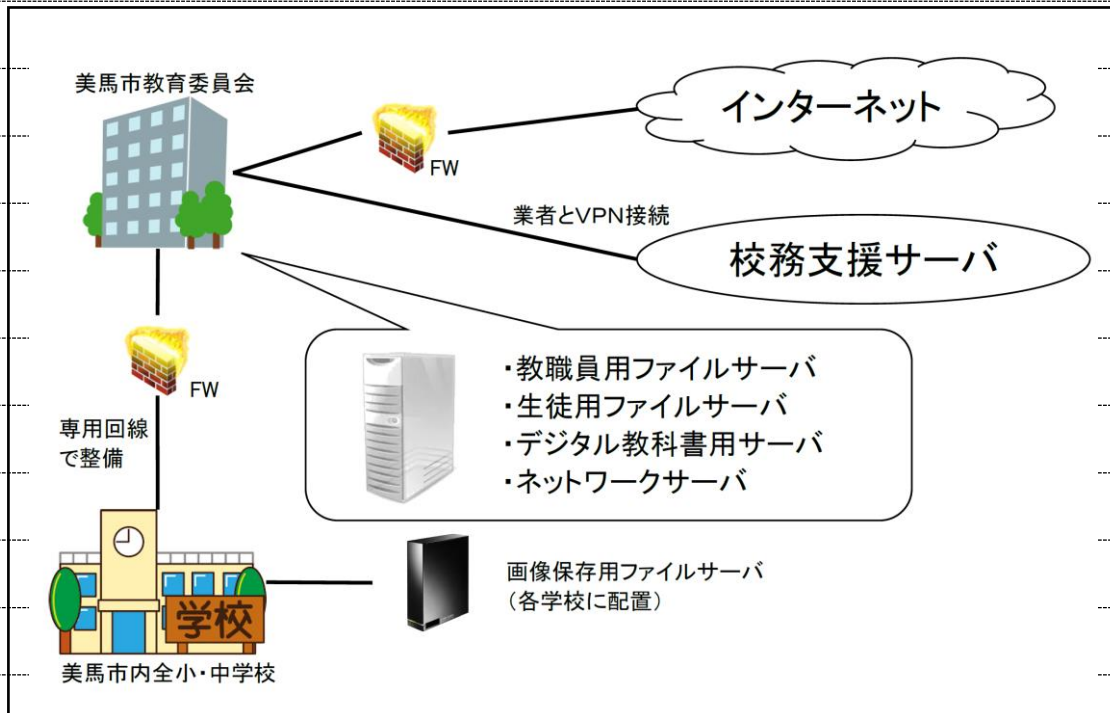


(2) 校内研修（授業）・各教科部会研修に対応



3. 美馬市教育 I C T 環境

(1) 美馬市内教育 L A N 状況



(2) 校務支援システム

○機能概要の説明

○実務担当者会議を年2, 3回実施し、システムの改善要望を受け付けている

(3) その他

○外国語活動

・すでに、小学3, 4年生に年35時間、小学5, 6年生に年70時間の授業を実施

・ALTを中学校に1名ずつ配置

○食育

・徳島一のおいしい給食を目指している

・お米を無償（保護者負担ゼロ）支給

○教育研究所

・10年前に設置